



# 蔵書院の評議団

戦団蔵書院を構成するスペースマリーンのサイキッカーは、とかく他の同胞から距離を置かれる存在である。この異能者らが操る神秘の力には、同胞の者すら不穏の念を禁じ得ぬものの、自らの戦団の司書官の威力はスペースマリーンの誰もが認めるところだ。ごく稀にこの者たちは、悪魔の侵攻や異種族の異能者による策謀に対抗すべく、精鋭特務部隊と共に戦地へと赴くことがある。この評議団が超人兵士の部隊を率いれば、同胞たちの卓越した膂力や俊敏性、そして耐久力も、異能のエネルギーによってさらに強化される。また、敵を幻影で惑わせたり、燃え盛る炎の奔流で殲滅することをも可能とするのだ。

## デタッチメント・ルール



### サイキック体系

生涯にわたってサイキック体系の修得に勤しむ司書官たちは、異界のエネルギーを操り、敵を混乱させ、戦闘同胞を鼓舞する術を極めてゆく。

バトルラウンド開始時、以下のサイキック体系の中から1個を選択する。そのバトルラウンド終了時まで、そのサイキック体系は有効となり、その効果はすべての自軍側戦闘者・サイカー・兵に適用される。

### 生体秘法体系

このユニット内の兵は【移動力】に+2mvの修正を受ける。

### 予見体系

このユニット内の各兵が行なう攻撃は、ヒットロールの出目1およびウーンズロールの出目1をすべてリロールする。

### 焰術体系

このユニット内の兵が、自身の12mv以内にいる敵ユニットを対象に射撃攻撃を行なう際、その攻撃の【貫通値】は1ポイント向上する。

### 念力体系

このユニットに対して行なわれる射撃攻撃の【攻撃力】は-1の修正を受ける。

### 精神感应体系

このユニット内の兵が行なう攻撃において、自軍はその攻撃の【接近戦技能】、【射撃技能】、ヒットロールへの任意の修正を無視してよい。

## 強化



### 予見 ..... 25PT

予知能力を専門的に扱う者たちは、戦いの流れを見通し、同盟の戦士を適切な位置に配置することができる。

戦闘者・サイカー・兵のみ（ターミネーター・兵を除く）。ターン中1回限り、敵ユニットが装備者の属するユニットの9mv以内で通常移動、全力移動、退却を完了した場合、装備者の属するユニットは最大D6mvまでの通常移動を行なえる。または、『予見体系』が自軍側に有効である場合、代わりに最大6mvまでの通常移動を行なえる。

### 敏速 ..... 30PT

異界の力が異能者によって取り込まれ、異能者自身と戦闘同胞の敏捷性を高めてゆく。

戦闘者・サイカー・兵のみ。装備者が属するユニットは全力移動を行っていたターン中にも突撃を宣言できる。また、『生体秘法体系』が自軍側に有効である場合、装備者が属するユニットは退却したターン中にも突撃を宣言できる。

### 精神攪乱 ..... 20PT

敵の思考を操ることにより、テレパシーの使い手は自身の存在を攪乱することができる。

戦闘者・サイカー・兵のみ。敵ユニットは『警戒射撃』の策略を使用して、装備者が属するユニットに対して射撃を行なうことができない。また、『精神感应体系』が自軍側に有効である場合、攻撃側の兵は、装備者が属するユニットの18mv以内にいない限り、装備者が属するユニットを射撃攻撃の対象として選択することができない。

### 斉射 ..... 15PT

司書官は、装甲をも貫く蒼炎の光輪で同盟戦士たちの弾薬を包み込む。

戦闘者・サイカー・兵のみ。装備者のユニット内の兵が装備する射撃武器は【モンスター特攻 5+】および【ビークル特攻 5+】アビリティを得る。さらに、

- 『焰術体系』が自軍側に有効である場合、【連続命中 1】アビリティを得る。
- 『念力体系』が自軍側に有効である場合、装備者が属するユニット内の兵が装備している射撃武器の【射程】は+6mvの修正を受ける。





## 知覚への襲撃

蔵書院の評議団 - 戦略的機動

司書官は敵の知覚を歪める能力を持つ。極度の妄執や混乱、恐怖をもたらされた敵は、戦闘不能の状態へと追い込まれる。

タイミング：指揮フェイズ中。

対象：自軍側戦闘者・サイカー・ユニット1個。

効果：自軍側ユニット内のサイカー・兵1体から18mv以内に存在する敵ユニット1体を選択する。次の自軍側ターン開始時まで、選択された敵ユニットは釘付け状態となる。ユニットが釘付け状態である間、そのユニットの【移動力】は-2mvの修正を受け、突撃ロールはそれぞれ-2の修正を受ける。加えて『精神感応体系』が自軍側に有効である場合、選択された敵特務兵は戦闘ショックテストを行わねばならず、そのテストはロールに-1の修正を受ける。

1CP

## 侮蔑の鎧

蔵書院の評議団 - 戦略的機動

超人的肉体と闘争心を併せ持つ戦闘者たちは、戦闘において強固な壁となる。

タイミング：敵軍側射撃フェイズ中または任意の自兵戦フェイズ中、敵ユニットが攻撃対象を選択した直後。

対象：攻撃側ユニットによる1回以上の攻撃の対象として選択された自軍側戦闘者・ユニット1個。

効果：そのフェイズの終了時まで、選択された自軍側ユニットに対する攻撃の【貫通値】は1ポイント弱体化する。

1CP

## 火焰の防盾

蔵書院の評議団 - 戦略的機動

敵が死の一撃を加えんと迫る中、異能者はその超常的能力で猛炎を巻き起こし、危機に瀕した同胞たちを防護する。その威力は恐るべきものであり、それに近づき攻撃を仕掛ける者を焼き尽くすほどであるという。

タイミング：自兵戦フェイズ中、敵ユニットが攻撃対象を選択した直後。

対象：自軍側戦闘者・インファントリーまたは自軍側戦闘者・騎乗・ユニットのうち、1体以上の味方戦闘者・サイカー・兵の18mv以内に存在し、なおかつ攻撃側ユニットによる1回以上の攻撃の対象として選択されたユニット1個。

効果：そのフェイズの終了時まで、自軍側ユニットに対する攻撃は、ヒットロールに-1の修正を受ける。また、『焔術体系』が自軍側に有効である場合、対象の自軍側ユニットの武器は【暴発】アビリティを得る。

1CP

## 鉄の腕力

蔵書院の評議団 - 戦略的機動

この司書官は肉体を強靱なる金属に変え、近接攻撃では敵の頭蓋を砕かんばかりの重力と衝撃をもたらす。

タイミング：自兵戦フェイズ中。

対象：自軍側戦闘者・インファントリー・ユニットのうち、1体以上の自軍側戦闘者・サイカー・兵の18mv以内に存在し、このフェイズ中にまだ自兵戦を宣言していないユニット1個。

効果：そのフェイズの終了時まで、その自軍側ユニット内の兵が装備している自兵戦武器の【攻撃力】は+1の修正を受ける（『生体秘法体系』が自軍に有効である場合は、+1ではなく+2の修正を受ける）。

1CP

## 猛襲

蔵書院の評議団 - 戦略的機動

司書官は精神の力のみを行使して、周囲にある瓦礫や巨岩、その他諸々の欠片を引き寄せ、それらを敵に対して投じることができる。

タイミング：自軍側射撃フェイズ中。

対象：射撃を宣言可能である自軍側戦闘者・サイカー・ユニット1個。

効果：自軍側ユニット（『単独工作員』アビリティを持つユニットを除く）に属する1体以上のサイカー・兵から視認され、なおかつ18mv以内に存在する敵ユニットを1個選択し、D6を6個ロールする。『念力体系』が自軍に有効であるならば、そのロールは+1の修正を受ける。ロール結果で4+が出るたび、選択された敵ユニットは1ポイントの致命的ダメージを受ける。

1CP

## 予見の精密攻撃

蔵書院の評議団 - 戦略的機動

司書官は自身の予知能力の一部を戦闘同胞と共有し、その射撃を正確に誘導することができる。

タイミング：自軍側射撃フェイズ中。

対象：このフェイズ中にまだ射撃を宣言していない自軍側戦闘者・サイカー・ユニット1個。

効果：そのフェイズ終了時まで、自軍側ユニットが攻撃を行なう際、その攻撃は【会心ヒット】アビリティを得る。さらに、『予見体系』が自軍に有効である場合には【遮蔽無効】アビリティも得る。

1CP